

問1(6)こども食堂の特徴・PR ポイント、運営にあたり感じている課題 2025

活動の特徴・PR ポイント

1. 北海道東北	2. 関東甲信越	3. 東海北陸	4. 近畿	5. 中国四国	6. 九州沖縄
【運営方針】地域住民の誰でも参加可能な開かれた雰囲気。子どもから高齢者まで幅広い参加者の存在。食事を通じた笑顔と安心の提供。「みんなが家族になれる場所」というコンセプトの共有。地域のお茶の間を目指した温かい雰囲気。SNS（Instagram）を活用した情報発信。食堂形式から弁当形式への柔軟な対応 【地域連携】地域の保健師や社協との連携による情報共有。地域活性化補助金の活用による運営支援 【居場所】母親の居場所づくりとしての活動展開 【交流】多世代交流の場としての機能 【地域食堂】地域食堂としての柔軟な運営形態。こども食堂と地域食堂の併用による包括的支援 【体験】食育活動や読み聞かせ、手話などの企画の充実。学習支援や体験活動の併設による教育的価値 【支援】宿題スペースやおにぎり提供による学習支援。フリースクールや無料塾の併設による教育支援。孤食防止を目的としたこども食堂の開催。食育を通じた子どもの自立支援 【食育】地元野菜やフードドライブ食材の活用による地域連携。自分たちで作って食べて片付けるという参加型の仕組み。農家からの食材寄付による地域資源の活用 【地域力醸成】地域福祉活動の推進拠点としての活用。地域ぐるみの子育て運動としての展開 【担い手創出】高校生や大学生のボランティア参加による若者の関与。将来教員を目指す大学生のボランティア参加。支援を受けた人が提供側に回るという好循環。多業種メンバーによる多様なスキルの活用	【運営方針】食事を通じたコミュニケーションの場づくりと地域貢献の意識。地産地消や個別指導を取り入れた学びと食の融合による地域貢献型の運営。地域住民や農家、団体の寄付による地域密着型の子ども食堂の形成。高齢者が活動を手伝うことで得られる社会貢献の喜び 【居場所】子どもたちが自由に過ごせるアットホームな空間の提供。食後のくつろぎや宿題の時間を設けた居場所としての機能。多文化共生を目指した、誰でも安心して利用できる居場所の提供。 【交流】地域の高齢者や障がい者も含めた多世代交流の場の創出。季節行事（夏祭り、ハロウィン、クリスマス）を通じた中高生と小学生の交流。食育クイズや遊びを通じたスタッフと利用者の交流の促進。SNS や予約フォームを活用した参加者とのコミュニケーションの工夫。 【体験】学習支援や農業体験など、食堂を超えた多様な活動の展開。健康講座や調理実習など、食堂以外の学びの機会の提供。芸術や音楽などの体験活動を通じた地域とのつながりの創出。 【支援】フードパントリーや無料食材配布による生活支援の実施 【食育】一汁三菜やアレルギーフリーなど、健康と安全に配慮した食事の提供。母子での調理体験を通じた孤食の防止と家庭内の食育の推進 【地域力醸成】フードロス削減や災害時の炊き出し訓練を兼ねた地域支援の仕組み 【担い手創出】障害者施設の利用者がボランティアとして参加する共生型の運営。学生や若者中心のボランティアによる活気ある運営体制	【運営方針】子どもたちのワクワクする気持ちを大切にしたい運営方針。国籍・年齢問わず誰でも歓迎する姿勢。地域の居場所としての認知と参加者の増加。 【地域連携】セーフティーネットの拡充に向けた社協・民生委員との連携。 【居場所】親子の居場所としての境内や御堂での遊びの提供。地域の老若男女が集う第三の居場所としてのコミュニティ形成。ミニゲームなどによる楽しい食事時間の演出。朝食食堂の新設によるニーズ対応と居場所の拡充。絵本の読み聞かせなどによる子どもの居場所づくり。 【交流】手作りの温かい食事を囲むことによる人とのつながりの創出。同月齢の家族との相席による子育ての参考と交流の促進。高齢者と子どもと一緒に食事をする場の提供。デイサービスとの併設による高齢者との交流の場の創出。e スポーツを活用した多世代交流の促進 【体験】アートギャラリーでの開催による精神衛生の育成。ワークショップやレクリエーションによる体験格差の解消。 【支援】学習支援と職業体験による将来へのヒントの提供。小児科医による育児・健康相談室の設置。アレルギー対応や健康相談による個別配慮の実施。 【食育】季節や旬の食材を取り入れた多様なメニューの提供。畑や野菜づくりを通じた食環境づくりの体験提供。無添加調味料やオーガニック食材による健康志向の食事提供。管理栄養士による定期的な食育の実施 【地域力醸成】放課後の学習時間の開放による地域の保育室としての機能。地域の方ができる範囲で関わるボランティア活動の推進。 【担い手創出】保育士や養護の担い手育成への貢献。ボランティア学生の居場所としての活用。通信制高校生や不登校生徒の継続的なボランティア参加。	【運営方針】個人宅開放による家庭的な雰囲気。孤食防止と生活の安心感の提供を目的とした運営。夏祭りや創作活動などのワクワク体験の提供。 【地域連携】地域団体や学校との密な連携による安心感の創出。幼保連携型認定こども園との連携による園児との交流の実現。社協との連携による課題共有と対策の実施 【居場所】地域の居場所づくりを最重要とする姿勢。子どもが笑顔で帰れる楽しい場所の提供。延長保育との連携による放課後の居場所の提供。 【交流】食事後の団楽時間やゲストとの交流による楽しさの演出。保育園併設による親子の交流の場の提供。多世代交流・体験学習・季節イベントなどの多様な活動の展開。商店街での開催による高齢者との交流の場の創出。障がい者グループホームとの共催による共生の場の創出。 【支援】学習支援と食事提供の連携による包括的支援の実施。朝ごはん会による長期休暇明けの子ども支援の実施。お米や食料品の配布による家庭支援の実施。送迎・物資支援による困難家庭への配慮。子育て世帯への支援による虐待・ネグレクト予防の意識 【食育】管理栄養士監修による安心安全な食事の提供。冷凍食品を使わない食育重視の運営。子どもが自分で作って食べる体験の提供。八百屋との提携によるフードロス削減と栄養バランスの工夫。 【地域力醸成】飲食店での開催による風評被害の回避と高頻度開催の実現。地域コミュニティの活性化と体験格差の解消への貢献。 【担い手創出】LINE グループによる支援者・協力者のネットワーク構築。	【運営方針】居心地の良いスペースと包括的支援（居住・就労支援）の提供。 【居場所】異年齢交流を促す放課後の安心安全な居場所の提供。 【交流】食事前の遊び時間による子どもとの交流の促進。多世代交流を意識した食堂の名称と運営。地域の高齢者や障がい者も含めた多様な参加者の受け入れ。フリースクール生徒や幼児連れの母親の参加による多様な利用者層の形成。 【体験】季節行事や読み聞かせなどの文化的活動の実施。子どもが笑顔になる食のイベントの実施（そうめん流し、焼き芋など）。小さい子どもから高齢者まで楽しめる企画（モルック、調理体験など）の実施。味噌作りや苔玉づくりなど家族で楽しめる体験活動の実施。 【支援】忙しい保護者への応援というスタンス。子育て世帯への夕食提供と食材配布による支援。フードパントリーや協力団体との連携による支援体制の強化。医療従事者によるアレルギー対応食の提供。 【食育】食品ロスや防災をテーマにしたエシカルな食育活動の展開。バイキング形式や農業体験などの体験型食堂の実施。 【地域力醸成】公民館や古民家など地域資源を活用した運営。地域の宝である子どもたちを地域全体で育てるという意識の共有。 【担い手創出】地元中学生との協働による季節行事の企画運営。子どもたちのボランティア参加による地域貢献意識の醸成。	【居場所】地域に周知され、毎日 100 人以上が参加する居場所の形成。学校区内での開催による子どものアクセスの確保。市内外からの参加者による広域的な居場所の形成。 【交流】地域の高齢者との連携によるシルバー食堂との共同開催。多世代交流と職員による共生型こども食堂の運営。障がい者スポーツや車イス体験などの交流イベントの実施。「食」を通じたコミュニケーション・集い・相談の場づくりの推進。食育体験を通じた生きる力の育成と地域交流の促進 【地域食堂】幼児から高齢者まで誰でも利用可能なバイキング形式の食堂の運営。地域食堂として親子連れや高齢者、学生が参加する多世代交流の場の形成。飲食店の労働を食材費に充当する仕組みによる運営の工夫。 【体験】食後のお楽しみ会や季節イベント（花火、流しそうめん、すいか割りなど）の実施。キャラクターリレーなどの子ども向けイベントによる参加促進。音楽コンサートなどの文化的イベントの開催 【支援】栄養バランスのとれた食事提供による子育て支援の実施。夏休みの学習支援と給食代替の昼食提供の実施。プレゼンテーションや舞台パフォーマンスによる子どもの表現活動の支援。ひとり親家庭福祉会との共催による支援の強化。月一回の子ども食堂に加え、生活困窮家庭への無料支援の実施。 【食育】地産食材の活用による食育の推進。自然生態系の町での自給自足経験を活かした「こだわりこども食堂」の運営。 【担い手創出】近隣大学生のボランティアによる活動の活性化。子供スタッフの自主的な参加による運営の活性化

課題

1. 北海道東北	2. 関東甲信越	3. 東海北陸	4. 近畿	5. 中国四国	6. 九州沖縄
【会場・設備の制限】台所の狭さ 【居場所の不安定性】居場所としての不確実性。食堂形式から弁当形式への変更による制限。対面開催への復帰困難。イベント規模の縮小 【参加の不安定さ】支援対象の明確化困難。子どもの参加の少なさ。高齢者の利用偏重 【周知不均衡】地域への周知不足。周知不足による参加数のばらつき。SNS による周知の限界 【支援の届きにくさ】本来に来てほしい人の不参加。支援の届きにくさ。利用の定着不足。貧困層への支援の未到達。利用者の負い目。食事提供の対応困難 【地域連携脆弱】児童館との関係性の課題 【資金不足】人件費の負担。法人への依存。運営資金の不足。補助金の不足。有償化の検討 【運営不安定】支援先の不在。自治体からの支援の不在。分業体制の未整備。担当者による考え方の変化。運営担い手の負担 【担い手不足】準備やスタッフ確保の困難。スタッフの充実不足。人員不足による開催制限。ボランティアの人手不足。ボランティアの減少。後継者の不在。担い手の高齢化	【会場・設備の制限】会場の狭さ。利用者の増加による対応の限界。地域貢献店舗の閉店。マンション運営による提供数の限界。食材・寄付品の保管場所の不足。交通の便の悪さ 【居場所の不安定性】食堂開催回数の不足。フードパントリー中心になってしまった活動の偏り。予約制による食品ロス防止と柔軟性の欠如。中高生の居場所の不足。親の送迎がないと来られない子供 【参加の不安定さ】安定的な集客の困難 【周知不均衡】認知不足による利用者数の少なさ。情報の周知不足 【支援の届きにくさ】本当に困っている人への情報の届きにくさ。食堂の必要性がある家庭への情報の届きにくさ。不登校児童への接点提供の困難 【支援困難な生活背景】健全な家庭との情報格差。調理に興味のない保護者の参加促進の困難。支援を受けていることが周囲に知られることへの懸念 【支援困難者】障がい者や高齢者への配慮不足。発達障害児への対応の難しさ。食物アレルギー対応の困難 【地域連携脆弱】地域との連携の弱さ。地域の閉鎖性。多文化共生の理解不足。専門機関との連携の必要性 【資金不足】運営費の確保。食材費の高騰 【担い手不足】担い手の高齢化。スタッフの確保。ボランティアの確保。地域ボランティアの高齢化。地域の協力者の減少。運営メンバーのコミュニケーション不足。学生ボランティアの不足 【危機管理】災害時の炊き出し訓練の必要性	【会場・設備の制限】子どもが寄りにくい環境。会場への迷惑の懸念 【居場所の不安定性】居場所活動にならないこと。月 1 回開催では支援が停滞。子どもとのふれあいの減少。個別対応多く継続困難 【周知不均衡】対象者への情報到達の不確実性。 【参加の不安定さ】予約の取りまとめの困難。来客数の予測の困難。中学生の参加の少なさ 【支援困難な生活背景】困窮状況の把握手段の不在。困窮世帯へのリーチの困難。情報入手の困難。食事に困っている家庭の多さ。家庭環境の問題。親の意識の課題。セーフティーネットの未整備 【地域連携脆弱】地域の過疎化。高齢者の多さ 【資金不足】資金の不安。助成の辞退による資金不足 【担い手不足】運営スタッフの確保に困難。ボランティアの作業精度の課題	【会場・設備の制限】自宅会場での収容の困難。参加者の増加による座席の混雑。調理場の狭さ。子どもが多くなりすぎて関わりが希薄になる状況。 【安全確保】送迎時の安全の問題 【居場所の不安定性】月 1 回開催では支援が不足する状況。食事提供だけで終わってしまう運営の限界 【周知不均衡】公平な PR の困難。学校からの呼びかけ以外の子どもが参加できていない問題 【支援困難な生活背景】経済的に困難を抱える家庭の多さ。孤食が増えている社会情勢。ネグレクトや虐待の存在への懸念。心の貧困の存在への認識。大人の注意がスルーされる子どもとの関係性の問題 【資金不足】学生ボランティアへの交通費の捻出の困難 【担い手不足】スタッフの人員不足。労働力の安定確保の課題。ボランティアの確保の困難。ボランティアの熱量のばらつき	【居場所の不安定性】居場所としての機能が弁当配布により失われた状態 【周知不足】認知度の低さによる新規参加者の不足 【参加の不安定さ】子供の参加にバラつきがある状況。少子化による活動の継続への不安。学童の参加がゼロ状態。学区外による子どもだけの参加の少なさ。会食型への移行後の利用者の激減。締切日を守れない参加者による準備の困難 【支援の届きにくさ】支援が本当に必要な人に届いているか不明な状況 【地域との摩擦】地域の学校からの活動への強い反対 【資金不足】助成金など支援の難しさ。運営資金・財源の確保の困難。食材費の高騰による運営の困難。野菜以外の食材（肉、魚、調味料など）の買い入れの困難。物価高騰による継続運営の困難 【担い手不足】スタッフの確保の困難。少子高齢化によるボランティアの減少。きめ細かなサポートのための人員不足	【会場・設備の制限】山間地域での移動手段の不足による参加困難。小中学校から離れた立地による子どもの移動の困難 【居場所の不安定性】拠点の不在による居場所としての機能の不安定性。月 1 回開催による居場所としての継続性への疑問。市内外からの複数参加による居場所の定義の曖昧さ 【関係形成】困窮者とのふれあいの不足による関係性の希薄化 【支援困難な生活背景】偏った食事の実態による栄養面の課題。食事中のスマホ使用やダラダラ食べへの対応の難しさ 【地域との摩擦】会場使用による家賃負担と自治会からの反対・嫌がらせの発生。偏見や忌避感の軽減に向けた運営体制の工夫の必要性 【資金不足】資金と人材確保の困難による継続運営の不安。食堂運営費の法人持ち出しによる継続性への不安。食材費や物価高騰による運営コストの増加 【担い手不足】大人スタッフの減少による運営負担の増加。調理スタッフの高齢化による人材確保の必要性。職員不足による弁当配布形式への変更。地域ボランティアの参加不足による活動の停滞。学生ボランティアの不在による学習指導の実施困難。若者ボランティアの不足による高齢化した運営体制。 【危機管理】災害時の支援体制構築に向けた平時の準備の必要性